



共生地域づくりプロジェクト通信

亘理郡山元町

「共生地域づくりプロジェクト通信」を創刊します。

東北福祉大学の森ゼミが取り組む「共生地域づくりプロジェクト」は、中山間地域の関係人口の創出を目指して、大学生と農業、地域づくり、多世代が交流するためのプラットフォームづくりと運営を行っていきます。本プロジェクトが、TOHOKU/宮城の地域課題の解決に向け、新たな結びつきを創造するイノベーションを生み出していく契機になることを目指します。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

\\ 楽しい農業づくりを通じた関係人口の創出と地域再生への挑戦 //

1 受け入れ先の畑楽(株)の内藤さんとおひさま村(株)の鈴木さんの紹介

本記事では、東北福祉大学の学生が山元町に実際に足を運んで経験した現地での活動を農業体験記として紹介しています。

今回は畑楽(株)の内藤さんとおひさま村(株)の鈴木さんに大学生ボランティアの受け入れをしていただきました。

まず、畑楽の内藤さんは東日本大震災のボランティアを経てここ山元町に移住してきた農家さんです。移住後山元町で手に職をつけようと考えたときに、移住前に漠然と農業をしてみたいという思いを持っていたこと、自身が被災地の新規就農のモデルケースになることで農業に関して未経験の人でも山元町に入ってこれるだろうと考え、農家になることを決めたそうです。そんな内藤さんは山元町牛橋地区で「紅はるか」という品種のさつまいもを育てています。丹精込めて育てたさつまいもは収穫後熟成させたのち、



やまもと夢いちごの郷にて焼き芋屋台販売(12月23日)
一本一本焼け具合を確かめながら焼き芋を焼く内藤さん(畑楽)

内藤さんが一本一本丁寧に焼き上げ、「農家の焼き芋」として販売されています。

次におひさま村農園の鈴木さんは、両親がりんごの専業農家であり、鈴木さん自身は早期退職し農家を継いだ方です。現在はおひさま村農園としてさつまいもやいちじく、ゆずなどを栽培しています。鈴木さんは高齢化や人口減少が進む山元町で町民や農園に訪れた人がワクワクするような魅力的な場所を作りたいという思いがあり、単に農作物を大量生産、大量出荷するだけではなく、農業経営者として農業体験を通して農業、農作物の魅力を伝えようとしている方です。



第1回八手庭古民家マルシェ(2月24日)
古民家正面、物販飲食ブースでの鈴木さん(おひさま村)の1枚

我々大学生は、来年度に向けての農作業を学生ボランティアとしてお手伝いさせていただきます。

2 大学生農業体験記「畑楽編」

畑楽にて大学生はさつまいもの収穫体験の補助スタッフとして活動させていただきました。内藤さんからレクチャーされたさつまいもの掘り方やより多くのさつまいもがついている株の見分け方などを学生がお客さまと一緒に掘りながら伝え学んでいました。

さつまいも掘りが終わった子どもたちと一緒に遊んであげるなど、普段学内ではできない体験をすることができました。また、他大学の学生も参加しており、畑楽の農業ボランティアは大学生同士の交流という貴重な機会にもなりました。

参加した学生からは、「普段の日常生活では触れることがない農業体験ができて貴重な体験だった。」「加えて、子どもたちと一緒に農業体験をすることでとても癒された。また来たい。」などの声が上がりました。

収穫したさつまいもは収穫後2ヶ月以上貯蔵して熟成させ、焼き芋にするのですが、昨年度熟成されていたさつまいもを坂元地区にある『やまもと夢いちごの郷』で焼き芋の屋台販売を行います。その屋台販売にも大学生のボランティアとして参加してきました。

基本的な接客はもちろん、山元町内外のお客さまと話す機会も多く、様々な方とのコミュニケーションを取る場として非日常感を楽しみ

ながら活動しました。

また、焼き芋販売の屋台の装飾や看板のデザインを変えたり、クリスマスの営業時には学生がサンタの被り物をして売り子をしたり、内藤さんと焼き芋のアレンジのために様々な調味料を組み合わせさせて食べてみたりなど、今後よりお客さまの目に留まり、より多く買ってくれるための工夫を考えながら活動しました。

学生からは、「接客やマーケティング、これからどう売り出していくかの企画などを考えるのが楽しい。」「自分の接客で買ってもらった焼き芋がおいしいといわれるのがとてもうれしい。」「内藤さんの焼き芋が好評であることが自分のことのようにうれしい。」といった感想を聞くことができました。

畑楽内藤さんからのコメント

学生達の持つ力は地域の課題解決に大いに貢献して下さる可能性を持っていると思います。広い視点・物怖じしない発想・若さによる行動力と勢い・世代を越える優しさや思いやり等、地域に新しい風を吹き込む力を感じました。

当農園で行った農作業体験や農産物販売でのお客さまからの評判も良く、畑やお店全体に活気が生まれました。あの雰囲気は関わる人みんなを元気にする力を持っていました。

地域の持つ課題は地域で解決すべきではありますが、学生の力はそのきっかけとして大いに貢献して下さると確信しています。

地域課題解決で大事な事は課題を適切に把握し、それに対して適切な施策を打つ事だと思うので、学生達と共に学びながら未来を作って行きたいと思いました。

ありがとうございました。



やまもと夢いちごの郷での焼き芋販売の様子(12月24日)
左:焼き芋を焼く内藤さん 右:商品を手渡す大学生



畑楽農園にてさつまいも収穫体験の様子(10月29日)
収穫体験に来た子供たちに掘り方を教える内藤さん



畑楽農園にてさつまいも収穫体験の様子(10月29日)
子供に花束を作って渡す大学生



『やまもと夢いちごの郷』での焼き芋販売の様子(12月24日)

おいも
見つけたよ!!
見て!
でっかい!

3 大学生農業体験記「おひさま村農園編」

おひさま村農園では、大学生が同年代に向けて農業の魅力を発信する取り組みを行っている最中です。

今月の活動では、おひさま村農園で栽培しているいちじくに関して、枝を剪定したのちに傷口が乾燥、腐敗しないようにボンドを塗る作業や植え込みの周辺に堆肥を撒く作業、剪定したいちじくの枝を集めて運ぶ作業などが行われました。

どれも初めての農業体験でしたが、現地の方々に農業生活の話やいちじくの植生について聞きながら、交流を含めリラックスしながら農業体験に取り組んでいました。

おひさま村農園での視察は、さつまいもが貯蔵してある倉庫の見学や施設の温度湿度管理、さつまいもの販売方法や植生についてなど聞きながら、各畑を学生と現地の方でフィールドワークしながら実際に歩いて行いました。

このような視察を繰り返す中で鈴木さんの今後の農業に対する思いや取り組んでいきたいことが少しずつ学生に伝わっていくのを感じています。

例えば2月24日に行われたおひさま村農園

がある山下地区八手庭にて、鈴木さんの同級生である斉藤さんの実家（もう使われていない古民家）を有効活用しようと考え、開催した「八手庭古民家マルシェ」も鈴木さんの熱い思いと行動力、



おひさま村農園への視察（2月5日）いちじくの木に堆肥を撒く作業にてねこ（一輪車）を引く様子



おひさま村農園への視察（2月5日）おひさま村農園の三橋さんに柚子の木の説明してもらっているところを撮影している様子

柚子の木ってトゲだらけ！
実際に見て初めて知った！

記憶に残った言葉たち

「学生が得意分野で農業にふれる」

鈴木さんには、大学生と農業をつなげるためのアイデアや意見を学生からたくさん提案し、経営者としてプロの目線でご意見をいただきました。意見交換の中で出てきたキーワードは「参加しやすい農業」。工学部の学生が農作業の道具製作・改良を行う、経営を学ぶ学生が持続可能な企画を考えるなど、各自が得意分野で農業にふれていくことで、楽しさの創造かつ地域・農業との関係人口の創出になると盛り上がりました。

山元町八手庭地区では味噌づくりの文化があり、現在は70代～80代の女性を中心の婦人会で味噌づくりを続けています。鈴木さんは、大学生たちにこの味噌づくりに参加してもらおうなど、地域にすでにある文化・資源を引き継ぎながら未来につなぐ活動もしたいと考えているそうです。古民家を活用したイベントや手作り体験など学生と地域の交流を狙いとした企画についても、取り組みたいものがたくさん話題になりました。目指すところは「共生農業」。山元町八手庭地区を知って訪れる機会をつくり、交流からつながりをつくった上で、農業を体験してもらおう…そういった流れを計画していきたいと思っています。

森先生よりごあいさつ

今年度、東北福祉大学森ゼミは、おひさま村農園さんと畑桑さんと農業を経験する機会を頂きました。いずれも条件は異なれど、農業と福祉の連携や、地元の古民家を活用し地域づくりの取り組みなど、新しい農業の形を作り上げて行こうとするエネルギーに満ちている活動に触れることができました。活動を通して、「誰でも参加しやすい農業」であったり、「楽しく農業を」モットーにした取り組みなど、新規就農した事業者の皆様だからこそ発信できる農業になるのではないかと予感しております。おひさま村農園とのインタビューの中で、誰もが暮らしやすい八手庭地区づくりに向けた共生会議の話題なども出てきて、今後の農業と地域づくりの新たな取組が始まるような気がしています。最後になりますが、お忙しいところ、本ゼミの活動に特段のご配慮を賜りました関係者の皆様から心から感謝申し上げます。なお、本活動は、令和5年度宮城県パートナーシップづくり助成事業の交付を受けて活動をおこないました。

山元町坂元地区行政連絡調整会議 会長 岩佐勝氏

令和5年度から、東北福祉大学の皆様山元町に入っただき、心強く、頼もしく感じています。東日本大震災後、山元町の大きな問題は、人口の流出です。その中でも、職場が少ない等のことから、若い人が多く出てしまいました。そんな中、大学生のように、若い皆様が入り、交流することにより、地域の活気が生まれてきたようです。学生の皆様には、農業や地域福祉等の学習に、これからも多く来町なされることを願っています。

そして鈴木さんを支える地域内外の人たちと共に開催しました。このイベントにも大学生のボランティアが大勢参加し、総数25名の大学生が参加しました。来場者が未知数で不安な部分もありましたが、お客さまも運営スタッフも大満足のイベントとなりました。

大学生がこれほど参加した背景には鈴木さんが思い描く地域の在り方やイベントを通して学ぶ経験や感じることに魅力を抱き、共感した学生が多かったからであると言えます。

今後は大学生が、同世代に向けて農業の魅力を発信するために動画を撮影し、SNSを活用してより多くの若者が山元町に足を運んでくれるようになるための活動を行っていきます。

応援よろしくをお願いします。



おひさま村農園への視察（2月5日）八手庭にある古民家にて現地の方にお話を聞いたり、取材している様子



第1回八手庭古民家マルシェにておひさま村農園の焼き芋を販売しているときの記念撮影（2月24日）左：大学生



第1回八手庭古民家マルシェにておひさま村農園の焼き芋を販売しているときの様子（2月24日）右：おひさま村農園の三橋さん



おひさま村農園への視察（2月5日）剪定したいちじくの枝を搬入する様子

いちじくの枝って
スベスベなんだね

おひさま村農園鈴木さんからのコメント

「高齢化、過疎化が進み様々な課題を抱える八手庭地区。大学生の若い力で地域住民一人ひとりが心豊かで幸せな暮らしができればと期待しています。世代や分野を超えて繋がるのがとても大切だと考えています。」よろしくお願いたします。

「自分では思いつかなかったアイデアだ！」

学生が鈴木さんへ提案するアイデアは実現や持続性にむけて課題が多いものも少なくありませんが、思わぬところで喜んでいただけることもありました。鈴木さんから特別支援学校の生徒たちの農作業受け入れについて話題が出た際、学生がふと思いつき「学生ボランティアが見守りでお手伝いしましょうか」と提案。鈴木さんは「そうか！ そういう活動もありだね。自分では思いつかなかったアイデアだ！助かるなあ」と実現に向けて即座にプランを練り始めていました。学生にとって、自分の考えが誰かの喜びにつながったり、実現したりする経験を味わうことができるのも、この活動の醍醐味の一つだと感じる場面でした。

鈴木さんから学生への期待！

「学生の皆さんは行動力も発想力もあって、一緒に活動するのが本当に楽しいですね。私はもともと、農業をさまざまな人に知ってもらい活動したいと思っており、自分なりのアイデアはありましたがマンパワーが足りませんでした。今回、企画を提案してもらったり、手伝ってもらったりすることで、自分の夢が実現しそうになっているなど感じています。これからもつながり続けていきたいですね。」

編集後記

高橋 爽太（ゼミ2年生）

この数ヶ月間山元町に足を運び、学生ボランティアとして活動する中でたくさんの人と出会うことができました！人と人が繋がりが合うことでこれからももっと楽しく、魅力ある地域になると確信しています！ 私たちを受け入れてくれた山元町みなさんに感謝です！
これからもよろしくをお願いします！

佐々木 遥香（ゼミ2年生）

今回の活動を通して、山元町の農業やそれを営む人々の魅力をたくさん発見することができました。ただ知識があるだけ、考えるだけではなく、現地の方々とコミュニケーションをとりながら実際に自分が体験してみることにより、自分にはなかった新しいものを発見できるということをもっと実感することができました。自分が感じた魅力を、今度は自分と同世代の大学生にも多く発信し、山元町の魅力をもっと多くの人々にお届けしていきたいです。今回の活動にご協力いただいた山元町の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。



Instagram



YouTube